



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2026年05月25日 第1268「週刊五十嵐レポート」

赤字事業をどうする

5月16日付日経新聞、「リタケ、祖業の食器継続」という記事。

アクティビスト(物言う株主)から不採算事業の撤退を含めた見直しを要求されていた(祖業だとしても資本コスト以上の資本効率を出すことが不可能な不採算事業から撤退することなどを求めた)。しかし、リタケは祖業の食器事業を継続する方針を明らかにした。

リタケの2026年3月期売上1,429、営業利益111(単位:億円)

工業機材売上564、営業利益16。セラミック・マテリアル売上500、営業利益83。エンジニアリング売上298、営業利益18。食器売上67、営業利益-6。

全体の売上に対する食器の構成比は4.68%。工業機材39.46%、セラミックマテリアル34.98%、エンジニアリング20.85%。食器が唯一の赤字部門。

考え方は二つある。全体売上の5%以下の事業部で赤字も全体から見れば微々たるもの。会社の祖業だから残しておいてもいい。もう一つは、全体売上の5%に満たない事業が每期赤字を垂れ流しており、祖業と言えどもお荷物になっている。分社化して切り離し、独立採算でやるか、事業譲渡する。

リタケの選択は前者の事業継続。セラミック・マテリアル事業部に吸収。

5月19日付日経新聞、イトーヨーカ堂社長のインタビュー。イトーヨーカ堂は2025年9月に米投資ファンドの傘下に入った。再成長に向けて総合スーパーから食品スーパーへの転換を急ぐ。プライベートブランドの品数を増やし安くても儲けられる体質にする。教育に投資。顧客ではなく本部を見て仕事をしていたというのが、旧イトーヨーカ堂の業績悪化要因だと思っている。一丁目一番地の顧客満足というところを全社で取り組まなければ本質の業績改善につながらない。

リタケの食器事業部は5期以上営業赤字が続いている。数字はウソをつかない。経営のやり方が根本的に間違っていることを証明している。売上1000億円以上の企業が売上70億円を扱うのは小さすぎる。食器事業は中小企業である。やり方は別にあるのではないか。

ちょっと
気になる出来事

5月20日付日経新聞、「百度、無人タクシー足踏み」という記事。

中国ネット大手、百度(バイドゥ)の自動運転で走る無人タクシー(ロボタクシー)事業に暗雲が漂っている。乗車件数は4年で16倍に伸びたが、3月に大規模な運行トラブルを起こした。

同社CEOは「無人タクシー事業は一部都市で損益分岐点に達した。今後とも投資が続くが、規模拡大で黒字化する道筋は見えている」と語った。

1~3月の無人タクシーの乗車件数は320万件と前年同期比2.3倍、4年前に比べると16倍。伸び盛りに急ブレーキとなったのが3月31日武漢市で起きた大規模障害。市街地で100台以上の車両が一斉立ち往生した。通信やプログラムの不具合からシステムが正常に動作しなくなったとみられている。

6月に北京に行った際に、無人タクシーに乗ろうと考えていた。私の心配は、自分のスマホでちゃんと乗れるのか。Wechat(微信)による中国での支払いは昨年深圳で活用した。またWechatから自動運転タクシーの「小馬智行」(バイドゥではない)のアプリが使えることがわかった。小馬智行はトヨタと提携している。とりあえず、乗れるかどうか、北京で試してみよう。



一口メモ
知識

政治の根本 2

弟子の子貢が「政治の基本は何ですか」と質問したので、

「食糧の充足・軍備の充実・政治家と国民の信頼関係の三つだよ」と答えたんだ。

すると、「その三点の中で、どうしてもやむを得ない場合には、どれを犠牲にしたらいいものでしょうか」と訊くから、

「まあ軍備だろう」と答えたんだ。

すると、「残った二点の中で、どうしても「やむを得ない場合には、どちらを犠牲にしましょうか」と訊くから、

「食糧だ。食糧の充足を欠けば人民は飢えて死者がでるかもしれない。しかし、人にとって死は遅かれ早かれ免れないものだ。政治家と国民の信頼関係さえあれば、弱くても貧しくても国を維持できるが、信頼関係がなければ、どれほど強く豊かでも国は維持できないよ」と答えたよ。

「高校生が感動した『論語』(祥伝社新書/佐久協)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

榎五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

